2013 年(平成 25 年)　9 月 5 日　第 245 号

酒　だ　よ　り

月刊・酒のペンクラブ(マスコミ酒の会)会報

酒のペンクラブ©
編集室：〒285-0015
佐倉市並木町 219-5
TEL&FAX 043-485-6874
編集人：西山　貢

「流し」で圭子の歌を聞く

麻木　正美（エディター）

テレビで藤圭子さんの訃報を知る。昭和 44 年、18 歳で「新宿の女」でデビューした彼女の歌声を新宿ゴールデン街の酒場で聞いたことがある。ギターを弾きながら、ドスの利いた声で、情念を込めた独特な歌い方、一度聞いてファンになってしまった。

彼女は「流し」の新人だと思っていたが、歌舞伎町のクラブ「マリ」のマスターで、「流し」をやっていた美山三郎さんによると、彼女の新曲のキャンペーンのため、彼も所属していた「流し」の元締め、東宝芸能が協力したもので、「流し」はやってないという。

北島三郎、五木ひろし、渥美二郎など「流し」から歌手になった人も多かった。作曲家の遠藤実も「流し」で唄っていた。ギター一丁と歌詞本を携えて酒場を回り、客のリクエストに応えて唄い、唄う客の伴奏もしてくれた。私は生のギター、独特の節回しで唄う「流し」の歌を聞きながら飲む酒が好きだった。当時はまだカラオケが普及してなく、新宿だけで 100 人を超す「流し」がいたという。料金は 3 曲 200 円くらいだった。

昨今は、ほとんどの酒場にカラオケが入り、客も店に入るなり歌の選曲で、人との会話も酒もどうでもよく、大声で歌いまくる。酒場というよりはカラオケ屋になってしまった。今では「流し」も新宿で 3 人になってしまった。残念で寂しい。

久し振りに四谷荒木町の「羅無櫓（ラムロ）」に顔を出す。焼酎、泡盛専門の居酒屋で、棚には日本全国の珍しいボトルがぎっしりと並んでいる。作務衣にピカピカが自慢の禿頭の店主、官兵衛さんが優しい笑顔で迎えてくれる。

山小屋風の店内でもわかるように、店主も山をやっていて、故植村直己氏の 1 年後輩。彼のピッケルやアイゼンも飾ってあり、明治大学山岳部のタマリ場でもある。山好きの客もいるが、全然関係のない私でも居心地がいい。

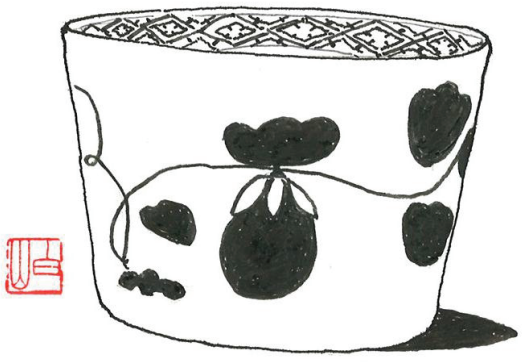
と、「今晩は！　1 曲いかがですか」と「流し」が入ってきたではないか。

船長の制服姿の平塚新太郎さんは「流し」歴 50 年、平日は荒木町、土曜日は北千住を回っているという。嬉しくなって早速お願いする。曲は藤圭子さんを偲んで「圭子の夢は夜ひらく」。

十五、十六、十七と
私の人生暗かった。
過去はどんなに暗くとも
夢は夜ひらく……。

「話をする人もいなくて、寂しかった」と生前のインタビューに答えていた圭子さん、御冥福をお祈りします。

・マリ：03-3205-2527
・羅無櫓：03-3358-9515



染付　茄子
1780～1810 年（肥前）
勝野　白山

１０月会合のお知らせ

日　時：１０月１５日（火）午後６時 30 分から２時間
場　所：男前料理　酒・菜 おかず　tel:03-3585-0472
港区赤坂 2-12-18　COI 赤坂溜池ビル 1F

９月会合のお知らせ

日　時：９月１８日（水）午後６時 30 分から２時間
場　所：新宿武蔵
新宿区新宿 1-23-1 新宿マルネビル B1F　℡03-5368-2573
東京メトロ丸の内線新宿御苑前駅下車、２番出口を出て四谷方面に進み新宿 1 丁目交差点を左折、前方左側の角。駅から徒歩３分。
出欠を確実に直接、勝野さん宛にお願いします。
お酒の持ち込み大歓迎。
出欠の連絡先：勝野定典　s.katsuno@katsu-design.jp
≪12 日（木）までに≫　携帯電話　090-6008-7489

預かり原稿が払底。原稿は慢性的に足りません。ご質問やご連絡は**西山の携帯**に。**090-3044-4803**

アル添擁護論の再燃を危ぶむ ⑦

梁井　宏（長期熟成酒研究会顧問）

アル添、三増を支持する識者たち

アルコール添加・三倍増醸は、戦中戦後の米が極端に不足した時代に、少量の米から大量の酒を造る方法として、緊急避難的に採用されたものであることは、日本酒に関る総ての人がよく知っている、紛れもない事実である。

そして、その事情をよく知っている人たちは、米の生産量が増え、米さえ充分に使えるようになれば「一日も速く、日本酒を本来の姿（アル添を止める）に戻さなければならない。」と考えていた筈だ。

ところが、昭和 40 年代に米の大豊作が続き、米はむしろ余るようになると一転して、日本酒造りを指導する立場にある、醸造試験所を頂点とする各局の鑑定官室の研究者たち、学識経験者と称される人たちが、アルコール添加を擁護するだけではなく、むしろ、アルコール添加を理論的に正当化し始めたのである。

①加藤　百一（元大阪国税局鑑定官室長）

アル添法・増醸法がもたらした影響

１、原料米の節減

さらに今後、世界的な人口増加に対する食糧不足を考慮すれば、これらの醸造法を単純に否定したり、安易に放棄すべきではない。

２、製造原価の引き下げ

原料米をはじめ人件費、雑費などが高騰している今日、製造原価の引き下げに大きな貢献を果たしている。

３、酒質の向上

アル添、増醸酒の原もろみは当時としては比較的精白度の高い、例えば精米歩合 75%程度の白米が使われたので、雑味の多い鈍重な、従前の酒質からみれば当然品質的な向上が見られた。そのうえ酒質上の多少の欠点はアルコール添加によって補える有利さがあった。

また、**増醸酒は……、酒質の向上に役立ちこそすれ、品質を劣化させる要因はきわめて少ない。**

ところが最近、清酒の表示問題から、米だけの酒の優位性を格つける気運が再燃しつつある。この考え方は、長い間清酒業界に内燃し続けてきた「米だけの酒」への郷愁で、清酒の品質、価格などを含めた大衆の嗜好性、清酒業者の経営性、清酒の保全性、さらには酒税面などとにらみ合わせると必ずしも優利とは言えない。

この重合的、総合的課題を解決しないで、単純にアルコール添加・混和法や増醸法を否定することはきわめて危険で、少なくとも賢明な企業家の取るべき道ではない。

「日本の酒の歴史」（協和発酵工業株式会社）　1976 年発行

南 の 島 の 現 代 禁 酒 法

近藤　節夫（日本ペンクラブ会員）

日本から遥か 4000 ㎞も離れた中部太平洋上に、かつてトラック諸島と呼ばれた小さな島嶼があった。戦前南洋群島と言われた諸島のひとつで、戦後国連の信託統治領となった後、1986 年に独立してミクロネシア連邦トラック州となり、その後チューク州チューク諸島とその名を変えた。

戦時中は大東亜共栄圏確立を目指した大日本帝国海軍の太平洋進出の橋頭堡として、連合艦隊司令部（司令長官・山本五十六元帥）が置かれていた。

明治中期以降、時の明治政府の南進政策に刺激され、青雲の志を抱いた多くの日本青年男子が荒波を乗り越えてトラック諸島へ向かった。その中にエマニュエル・マニー・モリ現ミクロネシア大統領の曽祖父で、「冒険ダン吉」のモデルとも言われた森小弁や、元プロ野球投手だったススム・アイザワ大酋長の父・相澤庄太郎、そしてトシオ・ナカヤマ初代ミクロネシア大統領の父・中山正美らがいた。彼ら日系人はお互いの子孫が結婚したことなどにより、親しい姻戚関係となったが、それぞれミクロネシア連邦の政治、経済、社会などの分野で活躍し、今もそろって大きな影響力と存在感を示している。

第一次世界大戦後、日本は敗戦国となったドイツに替わって国際連盟から中部太平洋海域に点在する南洋群島のうち、一部を除く島々の国家統治と権益を正式に委任された。実は、この国際機関と委任統治国家間の協定にはローカル条項とも言うべき条文が含まれていた。

それは「委任統治条項」と呼ばれ、極めてユニークで異例の条文だった。「島民に対する酒類供給の禁止」と称する一項だった。端的に言えば島内禁酒法である。穏やかな自然の中で自給自足に近い生活を送っていた島民たちに対して、何ゆえ当時の国連は禁酒法のような罰則的法律を課さなければならなかったのだろうか。

その理由は簡単である。トラック島では普段おとなしい男が一旦酒を飲んだら歯止めが効かなくなり、酒のう

★酒の川柳：二日酔い飲んだ所を考へる（二日酔いになるほど飲んだ時は記憶も曖昧になっている）

えでの酔っ払い同士の喧嘩が絶えず、派手な大立ち回りや刃傷沙汰に及んで、時には殺人事件に発展することもあり、島の警察も頭を悩ませた。その挙句に立法化されたのが、この島内禁酒令であり、それがエスカレートして天下の国際連盟公認の条項となったのである。

これはアルコールを飲みたい島民に対して資格審査を経た後に飲酒許可証を発行し、それを持たない島民には酒の販売を禁止するという、些か荒っぽい差別的な掟だった。言ってみれば、見ず知らずの他人にみだりに酒を飲ませ、酔わせてはならないという子どもじみた、金持ち優遇の法律だったのである。

1979 年３月、初めてトラック島を訪れた。その時島内で唯一のホテルとも言える「トラック・コンチネンタル・ホテル」（現ブルー・ラグーン・リゾート）に滞在した。夕食を終えて涼みがてらホテル敷地内にある南国ムード溢れる洒落た屋外バーへ立ち寄った。そこは戦争の縁が感じられる日本海軍水上飛行場跡地であり、目の前に日本のトーチカが残骸として海水の中に放置されている。目を背けても昭和 19 年２月の激しい米空軍機の空襲により徹底的に破壊された島の歴史を思い出させる場所である。

満天の星の下にバー・カウンターでビールを注文するや否や、間髪を入れず「ライセンス・カード、プリーズ！」ときた。

ウム？　ん？……　何だ、それは？　意味が分からず、旅券を取り出そうとした私を見て、隣席のアメリカ人観光客が助け舟を出してくれた。ここでは許可証がないとアルコールは飲めない。ホテルに泊まっているのなら受付で１ﾄﾞﾙ支払えば許可証を発行してくれるので、それを買って提示すれば飲めると親切に教えてくれた。

島民には許されないが、外国人なら金さえ出せば資格審査なしに飲ませてくれる。酒飲みの意地汚さでこの人種差別的な特別待遇話につい安易に乗ってしまったが、周りを見ればみな目の前にカードを置いている。

それが近年では島でもかなり自由に飲めるようになったと耳にした。今年６月 30 余年ぶりに旧トラック島を訪れたが、同じホテルにはもはやライセンス・カードなんてなく、堂々ビールは飲めた。

しかし、意外にも現実は禁酒法自体がまだ戦前からのうのうと生き延びていたのだ。今も普通の家庭では簡単には酒を購入できず、島の呑ん兵衛は悶々としているようだ。やはり、厳然として差別がある。アルコールなんて飲めないのは、イスラム諸国とアメリカ合衆国の一部のドライ・ステートだけだと思われがちだが、国内に飲める人と飲めない人を差別するこんな国もあるというのが現代ミクロネシア事情なのである。

蕎　麦　屋　で　１　杯

西山　貢（元日経新聞記者）

新蕎麦の出る時期が近づいてきたが、昔から蕎麦屋で１杯というのが酒飲みの理想であった。江戸時代には、店を構えている蕎麦屋には厳選された酒がおいてあるものだった。

新蕎麦は秋の季語になっており、香り、味、色が際立っており、江戸っ子たちは初鰹と同じくらい新蕎麦の出てくるのを待っていた。

江戸時代から急速に広まった蕎麦だが、いわゆる二八蕎麦という屋台などで売っている 16 文（約 400 円）のもりやかけから、浅草海苔をたっぷり入れた花巻は 24 文、てんぷら 32 文、御膳大せいろ 48 文など、値段もピンキリであった。

・蕎麦切り屋ばかり看板九九で書き（二八＝16）
・客二つ潰して夜鷹三つ食い（夜鷹１回の値段は 24 文＝600 円程度だった。２人の客を相手にすれば 48 文、16 文の蕎麦を３杯食べられるという計算になる）

この川柳からもわかるように、江戸時代の蕎麦は小腹がすいた時に食べるもので、１杯だけでは満腹にはならなかった。

神田にある有名な蕎麦屋では、もり１枚が 1,000 円近くする。しかも、ざるが上に出っ張っていてその丸いカーブの上に蕎麦がうっすらと載っている。ざるの表面がうっすらと覆われていて見えないが、重なっているところを探すのが難しいほどだ。箸で２、３回すくえばなくなるので、客は最低２枚は食べる。ちょっと大食いなら４、５枚は軽い。江戸時代からの伝統にしたがっている店だといってよかろう。

信州・上田の有名な蕎麦屋。ここはもりに「小」「中」「普」「大」とあり、値段は小が 500 円、大が 800 円。その小が普通の蕎麦屋の量で、神田の店の倍はある。大は小の４倍近くある。女性だったら、中でも食べきれないほどである。

江戸時代から信州人は大食いということになっていた。冬の農閑期、信州は雪に閉ざされることもあって江戸に出稼ぎに来る人が多かった。

・安ものの米うしなひは信濃なり
・病（わずら）って人並みにくふ信濃者
・信濃者三杯目から噛（か）んで喰（く）ひ

蕎麦のことを書いていたら無性に蕎麦を食べたくなった。ちょっと近くの蕎麦屋に行って軽く一杯やろうか。

★酒の川柳：二日酔頼朝程な重みがし（頼朝は大頭だったということになっている。「拝領の頭巾梶原縫い縮め」）

サンタバーバラとワイン

谷田　卓美（元日本航空）

カリフォルニア州サンタバーバラに、旅行したときのことです。サンタバーバラはロサンゼルスの北方 100 ﾏｲﾙ（約 160 ｷﾛﾒｰﾄﾙ）に位置し太平洋に面した美しいビーチを持つ高級リゾート地です。街は東に青い山を背負って西側の太平洋岸まで、それ程大きな街ではありませんがレンガ色の屋根にクリーム色の壁のスペイン風の優雅な街並みが続いています。

太平洋が西にあるという感覚は日本の関東に住む人間にとってはちょっと違和感もありますが、サンタバーバラのビーチから見る太平洋に沈む夕日は神々しく美しいものです。

サンタバーバラの周囲は、牧場や葡萄畑が広がるサンタバーバラ郡となっています。そしてその中心には赤いレンガ造りの建物が立ち並ぶオランダ村ソルバングや、牧場の中心地であるサンタイェンツ、ワイナリーの中心地であるロスオリボスなどの美しい街もあります。そして例年多数の観光客が訪れています。俳優のトム・クルーズやドナルド・レーガン元大統領の牧場もこの近くにあります。またマイケル・ジャクソンが晩年を過ごしたネバーランド牧場もサンタイェンツにあり、今でも花束やカードを携えたファンが絶えないそうです。

ここにはまた有名な学校もあります。カリフォルニア州立大学サンタバーバラ校がやはり太平洋に面した海岸の丘に瀟洒な校舎が建っています。青色発光ダイオード（ＬＥＤ）で高名な中村修二氏が教鞭をとっていることでも有名です。この様に気候が温暖で、良好な環境ですから軍需産業のレイセオンや人工衛星のリモートセンシングの会社をはじめとする航空宇宙関係産業の工場も多数あります。

サンタイェンツの街には牧場から、牛、牧童までを紹介してくれる不動産屋も多数あります。私も冷やかしてみましたが、手が出るわけもなく笑ってごまかしました。昨夜までは太平洋から大型の低気圧が押し寄せ、珍しい暴風雨でサンタバーバラの街も水浸しになっていましたが、今日は陽光が燦燦とそそぐ陽気になりましたので、サンタイェンツのレストランのテラスで昼食をとりました。ワインは地元のワインでハウスワインを飲みました。赤ワインで香りがよく、少し酸味が効いていますがまろやかでした。

カリフォルニアのワインと言えばサンフランシスコの北部のナパバレーやソノマのワインが有名ですが、ここサンタバーバラ周辺も 200 年の歴史があり、いいワインが生産されています。またブティックワイナリーと言うごく小規模のワイナリーもたくさんあります。各ワイナリーでは５ﾄﾞﾙほどでテイスティングができます。お値段も好みに応じて 1 本 10 ﾄﾞﾙ未満から何百ﾄﾞﾙまでさまざまです。辛口のピノノワールが有名ですが、私は 1 本 10 ﾄﾞﾙのワインでも充分美味しいと思い、1 本 10 ﾄﾞﾙの赤ワインを 1 ダース買いました。サンタバーバラの後は、ワインを車に積んでロサンゼルスからラスベガスを回りましたが、フルーティーですっきりしたワインには大満足でした。

ラスベガスからはツアーでグランドキャニオンも見物しました。ちょうど山に雪が積もった白いグランドキャニオンを見ることができました。ギャンブルではルーレットは駄目でしたが、スロットマシンで 25 ｾﾝﾄ硬貨が山の様にでました。カリフォルニアは気候も温暖で過ごしやすい所です。ワインも安くて美味しくお酒飲みにとっては天国のようなところです。カリフォルニア州全体では葡萄の収穫量は 3,700 万ﾄﾝありワインの生産量は年間 30 億本に及ぶそうです。なかでもサンタバーバラは質量ともに充実したワインが楽しめる街の１つです。また街の雰囲気は山と海と街がコロニアル調に調和していますし、美味しいレストランも多数あります。少し高級な街ですが、ロサンゼルスで少し時間があれば、是非、脚を伸ばして訪れたい街です。

落語と酒⑰　『百川（ももかわ）』

三好　醒山（江戸研究家）

題名となっている「百川」というのは、明治の初め頃まで実在していた会席料亭で、黒船来航の折には幕府の命を受け、乗組員全員の 300 人に本膳を出し、その費用は１千両とも２千両ともいわれる。物価や人件費などがいろいろ違うので単純な換算は難しいが、１両 10 万～20 万円として１億～２億円ということになる。これだけの料理を請け負うことができたということは、百川がそれだけ大店（おおだな）だったとわかる。しかも他店の手伝いを借りずに、食器なども全て自前でそろえたぐらいの力があった。

百川のあった浮世小路というのは、日本橋三越本店の近く、最近できたＹＵＩＴＯ　ＡＮＮＥＸ（浮世小路千疋屋ビル）のあたりである。江戸時代から商店の立ち並ぶ日本橋、室町の一帯で、「浮世」という名前にそぐわ

★酒の川柳：鉢巻で女房に願う迎い酒（二日酔いの頭痛で鉢巻をして女房に向かい酒を頼む）

ない街だが浮世風呂があったからとか、浮世ゴザを商う店があったからこの名がついたといわれる。

この辺の説明をマクラで入れる噺家（柳家小三治）もいるが、もともと長い噺なので、入れないほうが多い。いずれにせよ、「百川であったことを噺にしただけのことで」で本題に入る。要は勘違いの積み重ねの話である。

「御免くだせえまし」。田舎者の百兵衛さんが桂庵（けいあん）の紹介で百川にやってきたところから噺は始まる。桂庵というのは職業斡旋所のことで、町奴の番随院長兵衛もこの仕事をしていたという。大名や旗本などの屋敷に中間（ちゅうげん）を紹介したり、商家に下男や下女を紹介し、その身元引受人にもなった。

百兵衛さんは初めての奉公なので何も分からないと言うが、百川の主人はその方が使いやすいし、店の名と同じ「百」が付くのも何かの縁、仕事は飯炊きや下働きなどだが、今日は目見えだから様子を見ていればいいと言う。そこに2階で手が鳴った。客は河岸の若い衆で、祭りの準備の寄り合いである。女中連中は髪をほどいてしまい、接客出来ない。そこで百兵衛さんがお客の部屋へ。

田舎訛りで「ワシはこのシジンケ（主人家）のカケエ（抱え）人で……」と言ったのが「四神剣の掛け合い人」と勘違いされてしまう。四神剣というのは「青龍」「朱雀」「白虎」「玄武」の4つの神獣の絵を描いた旗がついた鉾のこと。四神は高松塚古墳できれいな彩色の絵が見つかったことで一挙に有名になった。東西南北を守り、春夏秋冬をつかさどる神のこと。「青春」「白秋」などの言葉のもととなっており、朱雀門、白虎隊などもこの四神からつけられた。玄武岩というのは岩の割れ方が亀の甲羅のようになっているために名付けられた。皇太子のことを「東宮」というのは、これから陽が昇って天皇になるべき人という意味である。日銀総裁の黒田東彦氏の名前を「はるひこ」と読むのも「東」＝「春」だからである。

河岸の若い衆たちは、昨年の祭りの後、四神剣を預かったのだが、調子に乗って打ち上げで飲み過ぎ、足りない分、四神剣を質に入れてその費用を賄っていたのだ。そろそろ質屋から受け出して隣町の衆に引き渡さなければならない。こうした背景があっただけに百兵衛さんの挨拶を聞き間違えてしまったのだ。

江戸時代には、質屋は庶民にとって欠かせないものだった。通常の商売はツケにして盆暮れ勘定だったが、ツケがきかないような庶民の多くは現金での勘定だった。「文政年間漫録」（栗原柳庵著）によると、700文ほどで野菜や魚などを仕入れ、それを担いで一日売って歩いて1200文ほどになったという。ここから毎日の必要経費を引いて100～200文ほどはあまったという。しかし、雨などで売りに出ることのできない日もあったり、病気なったりすればすぐに干上がってしまう。その時にお世話になるのが質屋であった。質屋に関しては、落語の種になる小噺がたくさんある。

さて『百川』では、後ろ暗いところがある若い衆は百兵衛さんを下にも置かずにもてなす。まずはお酒をと勧めると「飲めねえでがす」。「仇の家に行っても口を濡らさずに帰る事はないというじゃありませんか」とさらに進めても百兵衛さんは飲まない、そこで「では甘いものを」と慈姑（くわい）のきんとんを勧める。そして……とりあえずお引き取り願う。

その後、百兵衛さんが百川の従業員だとわかり、若い衆は百兵衛さんを使いに出す。「長谷川町三光新道に住んでいる常盤津の師匠歌女文字（かめもじ）を呼んで来い」。江戸っ子の早口なので百兵衛さんは何度も聞き直す。若い衆はいら立って、「三光新道に『か』の字のつく名高い人だと言えばすぐ分かる。早く行って来い」。三光新道は人形町と堀留の間にある三光稲荷神社の前の細い道。浮世小路から直線距離で東に500㍍ほどのところにある。

さて、ようやく三光新道にたどり着いた百兵衛さん。そのあたりの人に「『か』のつく偉い人」と尋ねると「鴨池玄林（かもじげんりん）先生だ、外科のお医者様だ」と教わり、受付で「河岸の若い方がケサガケ（今朝ほど）に四、五人キラレ（来られ）やして、ちょっくら先生においでいただきたい」。先生は「袈裟懸けに四、五人切られた」と聞いて、「手遅れになるといかんから焼酎1升と白布を五六反、鶏卵を20ほど用意をしておくように」と、薬籠箱を持たせて先に帰した。そして……。

年をとると勘違いや聞き違えが増えてくる。話すときにも、似たようなほかのことをいってしまうことも多い。私事ながら、ホテルのフロントで、「伝言をよろしく」と言うつもりで「電話をよろしく」と言ってしまい、「電話はできません」と断られたことがつい最近あった。ひどい時には「冷蔵庫」のつもりで「洗濯機」と言ってしまったりする。これほどひどくはなくても、皆さんにも心当たりはあるのでは……。

県民性お酒ランキング

どの酒がどの県で売れているのか？　材料の産地、酒の醸造法などによるのは納得できるが、どうして？と思われる順位もある。酒を飲みながら考えてみるのも面白いのでは。

	ウイスキー	焼酎	日本酒	ビール	発泡酒	ワイン	アルコール計
1位	宮城	鹿児島	新潟	東京	高知	山梨	高知
2位	北海道	宮崎	秋田	宮崎	沖縄	東京	山形
3位	青森	大分	富山	高知	宮崎	神奈川	東京

※2008年度成人昼間人口一人当たり。国税庁の都道府県別の販売（消費）数に基づき計算。

※ウイスキーは北高東低、焼酎は九州、日本酒は東北から北陸、ワインは生産地と大都市で好まれる傾向。

県民性博士　矢野新一氏の監修

★酒の川柳：鉢巻も頭痛の時は哀れなり（祭りや喧嘩の時の鉢巻は威勢がいいが、頭痛のための鉢巻は哀れなもの）

≪イベント情報≫

◆熟成古酒　秋の勉強会

３年以上、貯蔵・熟成させた日本酒、「熟成古酒」についての勉強会です。日本酒を長期間貯蔵熟成した、「熟成古酒」についての勉強会。毎回、熟成古酒の醸造技術から市場動向まで、幅広い話題を扱っていますが、今回は、世界のアルコール市場における熟成古酒の位置、今後採るべき戦略・熟成古酒のブレンド技術と、その他のアルコール飲料との比較について、各界のエキスパートの皆さんにご講演いただきます。また、熟成古酒のブレンドについては、会場の皆さんにも実際にブレンドを体験していただきます。

日時： ９月 27 日（金）15:00～18:00
場所： 日本酒造会館８階 大会議室
出演： 平出淑恵氏（株式会社コーポ・幸 代表取締役)、寺嶌圭吾氏（有限会社てらしま 代表)他

◆熟成古酒　秋の販売会

日時： ９月 28 日（土）11:00～18：00
場所： 東京交通会館１Ｆピロティ
参加費： 無料。試飲は有料、ただし、試飲パスポート購入で多くの試飲が無料に（一部試飲は有料）
試飲パスポート： 前売　1,000 円、当日　1,500 円

◆日本酒で乾杯推進会議
「第 10 回 総会・フォーラム＆懇親パーティ」

開催日： ９月 30 日（月）
会場： 明治記念館　東京都港区元赤坂 2-2-23
２階　蓬莱の間（総会・フォーラム）
２階　富士の間（懇親パーティ）
http://www.meijikinenkan.gr.jp
開催概要： (1)総会〔16:00～16:30〕
(2) フォーラム〔16:35～18:20〕
・落語　古今亭菊千代氏　　演目「夢の酒」
・パネルディスカッション
テーマ　「日本酒で乾杯」のこれまでとこれから
(3) 懇親パーティ
定員： 500 名（定員になりしだい締切り）
参加費： 3,000 円
申込方法： 郵便局備え付けの「郵便払込取扱票」で９月 20 日(金)までにお振込みください。なお、振込手数料はご負担願います。入金確認後、「参加証」を郵送いたしますので当日必ずお持ちください。
＜振込先＞■口座記号：００１３０－５　■口座番号：５３７３４６　■加入者名：日本酒造組合中央会
通信欄に、1.「日本酒で乾杯」と明記し、2.参加費（3,000×　　）名分、3.会員番号、4.お名前をご記入ください。また、ご依頼人欄に「参加証」送付先のお名前、ご住所、電話番号をご記入ください。

◆秋田の酒とうまいものを楽しむ会

日時： ９月 26 日（木）18:30～20:00
会場： 東京会館　東京都千代田区丸の内 3-2-1
料金： 6,000 円
チケット購入方法： イープラスチケットガイド
主催・お問い合わせ： 秋田県酒造組合
TEL:018-863-6455

◆千葉の酒フェスタ 2013

日時： 10 月 4 日（金）17:30～20:30
会場： 東京ベイ幕張ホール（アパホテル&リゾート）
千葉市美浜区ひび野 2-3　TEL：043-296-1112
アクセス： ＪＲ京葉線海浜幕張駅下車、海側徒歩５分
料金： 2,000 円（前払い、入場券を事前送付）
特典： ちばの【味】と【酒】購入チケット（1,000 円）付き、ミニきき猪口プレゼント
定員： 650 名（申込先着順）
お申込方法： イープラス（「ちばの【味】と【酒】購入チケット」1,000 円にプラスして 200 円分提供）
電話・ＦＡＸで（受付後に入場料の振込先を連絡いたしますので、入金確認後に入場券をご送付いたします）
主催・お問い合わせ： 千葉県酒造組合
TEL：043-222-0686　FAX：043-222-1977

◆埼玉 35 酒蔵　第 10 回大試飲会

日時： 10 月２日（金）
第１部　酒販店及び飲食店向け　15:00～16:00
第２部　一般消費者向け　16:30～19:30（参加費 500 円）
場所： 大宮ソニックシティ第１展示場

◆武蔵の國の酒祭り 2013

日時： ９月 15 日（日）10：00～18：00
場所： 府中市　大国魂神社参道わき広場（京王線府中駅徒歩５分・ＪＲ南武線・武蔵野線徒歩５分）
内容： 全国各地の酒を集めてのきき酒会。会場の大国魂神社内には醸造の神様『松尾神社』が鎮斎されています。歴史あるこの地において地域と日本酒文化を盛り上げるためにこのきき酒会を開催いたします。

◆茨木地酒祭り in 花やしき 2013

日時： 10 月 11 日（金）18：30～20：30
場　所： 花やしき
東京都台東区浅草 2-28-1
℡　03-3842-8780
入場券： 前売券 4,000 円（700 名様限定）
お求めは e＋（イープラス）

８月の会合はありませんでした

《編集後記》

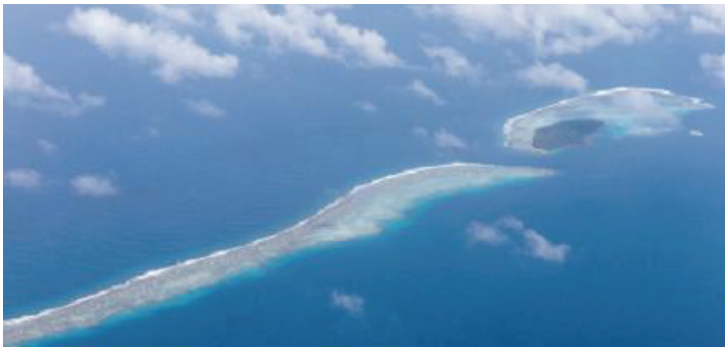
姪の結婚式でハワイに行ってきました。40 年ぶりのハワイでしたが、ワイキキのあたりの海岸とダイヤモンドヘッドの景色はあまり変わっていませんでした。一番変化を感じたのは、以前より東洋人の比率が高くなっていたのと、その東洋人の言葉が必ずしも日本語ではなかったことです。

サンセットクルーズでディナーを楽しみ、映画に出てくるような胴体の長いリムジンに乗って、聖アンドリュース大聖堂に案内してもらい、結婚式に出ました。潜水艦に乗ってワイキキ沖の漁礁などを眺め、ウミガメにも会ってきました。

スーパーを回ってお酒の写真などを撮っていたら、ハワイで造っている日本酒がありましたので買ってきました。次回の例会でお持ちします。お楽しみに。(西山)

☆**原稿を募集中です。**なるべくメールで nisiyamam@aol.com 宛に。メールでのお申し込みもこちらに。

エメラルドグリーンの美しいトラック環礁（「南の島の現代禁酒法」）

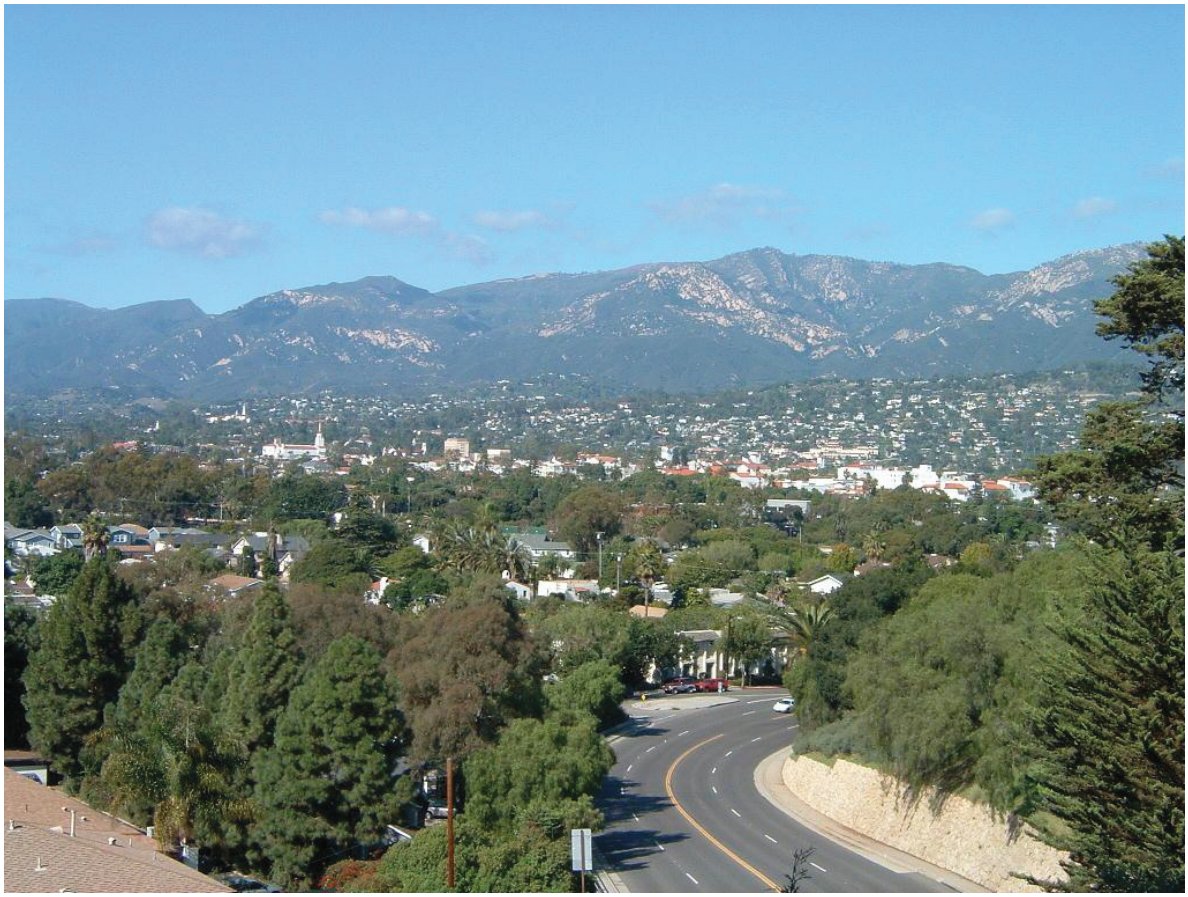


トラック唯一の高級ホテル

ホテル内の旧日本海軍水上飛行場揚陸跡地

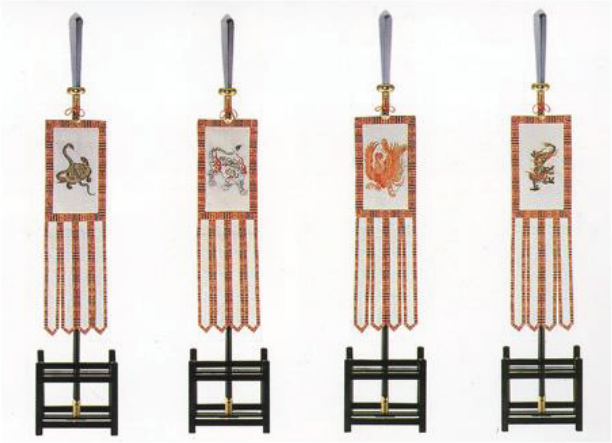
アイザワ酋長の娘家族と私（左端）
背後に掲げられている額は日本海軍の沈没艦

高級リゾート地、サンタバーバラの町並み（「サンタバーバラとワイン」）



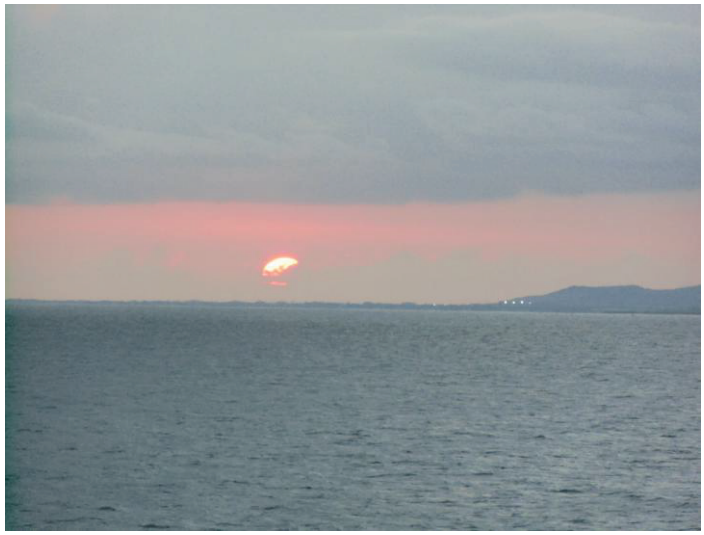
サンタバーバラから見る太平洋への日没

四神剣（左から玄武、白虎、朱雀、青龍）、四神旗ともいう（「落語と酒⑰　百川」）



百兵衛さんが歌女文字を呼びに行った三光神道

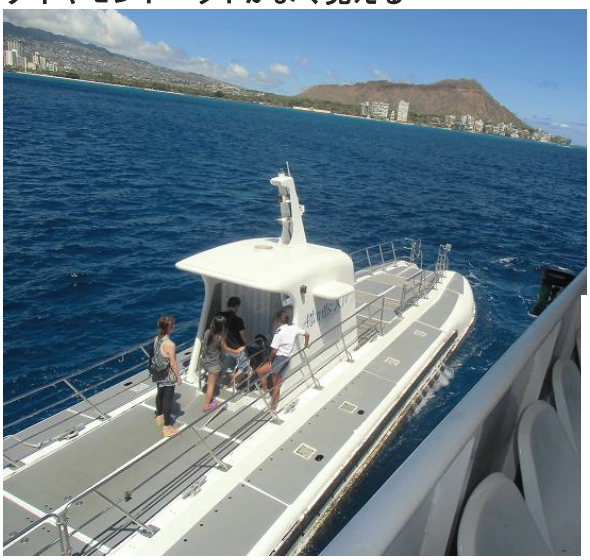
ハワイ･オワフ島の沖に沈む太陽（船の上から見る）
（「編集後記」）



胴長のリムジン

リムジンの内部

ワイキキ沖で海底散歩するための潜水艦。
ダイヤモンドヘッドがよく見える



潜水艦の内部。水深 30 ㍍ほどまで潜り、漁礁などにいる魚やウミガメを見る